







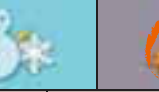














2 川・湖・池をフィールドとしたプログラム


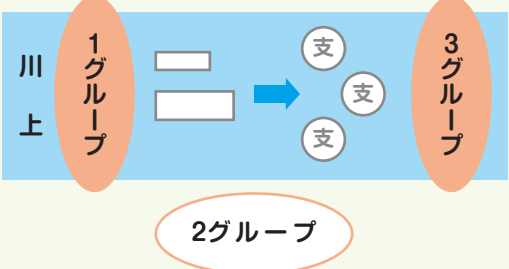
川・湖・池などでは、石や砂との出会い、「流す」・「溶かす」・「運ぶ」といった水のはたらきから水の力や怖さを知ること、水の中でくらす多様な生き物を通じていのちの源である水の大切さを知ることができます。

そうしたことを、フィールドのいろいろな側面に直接ふれる体験を通じて感じとれるようにし、「水を汚さない」、「ゴミを捨てない」などの意識を引き出していきましょう。

また、水辺での遊びの楽しさを伝えることも大切ですが、日常出かける機会の少ない場所なので、まずは水辺の危険性を子どもたちに伝えることから始めましょう。



| プログラム名 | | ゴールに向かってプカプカリン | | | | | |
|--------------|----------------|---|---|---|--|---|---|
| 対象年齢 | | 年長（5～6歳） | | | | | |
| ねらい | メッセージ | 山から湖（琵琶湖）までの川の流れ（つながり）に気づこう | | | | | |
| | 発見・体感 できること | <ul style="list-style-type: none"> ・川の流れの強さ、速さ、方向 ・川の水温 ・川の危険性 ・川の中の砂や石の動き | | | | | |
| 参加者のめやす | | 幼児 6人×3グループ / 支援者 4人～ | | | | | |
| 実施時間 | | 30分 | | | | | |
| フィールド | |  | |  | |  | |
| | | 森・社寺林公園 | 山・里山 | 川 | 湖・池 | 田畑・野原 | 園庭・公園 |
| 実施可能時期 | |  | |  | |  | |
| | |  | |  | |  | |
| 自然を感じるためのヒント | |  |  |  |  |  |  |
| | |  |  |  |  |  |  |
| 時間 | | 活 動 | | | ●配慮・アドバイス ◎アレンジ | | |
| 準備 | | | | | <ul style="list-style-type: none"> ●子どもが入っても差し支えない川で行います。 <ul style="list-style-type: none"> ・水深は、子どもの長靴が水浸しにならない程度（10cm程度）を目安としましょう。 ・3面張りの川底はすべりやすいので避けましょう。 ●水難事故の危険性を伝え、川の中での活動のルールをしっかりと確認しておきます。 <ul style="list-style-type: none"> ・決められた範囲や時間内でのみ活動する ・すべらないように足下に注意する ・川の中では絶対に走らないようにする 等 | | |
| 5分 | | ①川岸から川の中の様子を覗いてみる | | | ◎川底の砂や小石が動いている（流されている）様子を見せて、川の運搬作用についても伝えるとよいでしょう。 （例）覗きめがね（箱めがね）があると水中の観察がしやすくなります。 | | |
| 20分 （②,③） | | ②グループ順に川の中に入る ▼子ども：1グループが川上の指定の場所に立つ ▼支援者：川下で待ち受ける ③空のペットボトルを川に流し、川下で待ち受ける支援者の足の間に何本通せるか競争する（支援者は審判も兼ねる） | | | <ul style="list-style-type: none"> ●子どもたちがペットボトルを安全に拾える状況か必ず確認し、無理な場合は支援者が拾います。 ◎ロープや杭を用意し、その間を通すようにしてもよいでしょう。 ◎子どもたち自身があらかじめ流すものを作っておくのもよいでしょう。 | | |

| 時 間 | 活 動 | ●配慮・アドバイス ○アレンジ |
|---|---|--|
| 5分 | ④川の流れ方（速さや強さ、どこからどこへ向かって流れているか）や、浮いているごみなどについて、感じたことを話し合う  | <div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p style="text-align: center;">「ゴールに向かってフカスカリン」 （3グループ対抗）の遊び方</p> <p>ペットボトルなどを流し、支援者の足の間等にくっ通せるかを競います。</p>  <p>1グループ：川上からペットボトルを流す 2グループ：岸で待機し、流れの様子を観察 3グループ：川下でペットボトルを回収</p> </div> |
| <p>【異年齢への対応】</p> <p>◆年少・年中：川の中を歩いてみるだけでも、川の流れや水温などを体感することができます。電車ごっこ要領で、向こう岸に渡ってみるのもよいでしょう。</p> | | |
| <p>【園や家庭へ帰ってから】</p> <p>◆川をたどって琵琶湖に行ってみましょう。</p> <p>◆水の種類（真水・潮水など）、形状（水・氷・湯気など）、季節によつての変化について考えてみましょう。</p> <p>◆家で使う水は、どこから来て、どこへ流れていくのか、みんなで話し合ってみましょう。</p> | | |
| 準備物・教材等 | <ul style="list-style-type: none"> ・ペットボトル（大小様々なものを用意し、ビニールテープ等でチームごとに色分けする）、カラーボールなど水に浮くもの ・覗きめがね＝箱めがね …水面上から水中を観察するための箱形の眼鏡。箱の底の部分がガラスまたは凸レンズになっているもの ・その他p12～13「服装と持ち物」参照 | |



| プログラム名 | | さかなに変身 | | | | | | | |
|--------------|--|---|---|---|--|---|---|--|--|
| 対象年齢 | | 年長（5～6歳） | | | | | | | |
| ねらい | メッセージ | 川での魚の暮らしに気づこう | | | | | | | |
| | 発見・体感 できること | <ul style="list-style-type: none"> ・川の流れの中で泳いでいる魚の気持ち ・川の流れの速さ ・川や川原のにおい、風など | | | | | | | |
| 参加者のめやす | | 幼児 5人～40人 / 支援者 3人～ | | | | | | | |
| 実施時間 | | 30分 | | | | | | | |
| フィールド | |  | |  | |  | | | |
| | | 森・社寺林公園 | 山・里山 | 川 | 湖・池 | 田畑・野原 | 園庭・公園 | | |
| 実施可能時期 | |  | |  | |  | | | |
| | |  | |  | |  | | | |
| 自然を感じるためのヒント | |  |  |  |  |  |  | | |
| | |  |  |  |  |  |  |  | |
| 時間 | | 活 動 | | | ●配慮・アドバイス ◎アレンジ | | | | |
| 準備 | |  | | | <ul style="list-style-type: none"> ●川原の草刈り後など、川面の見通しがよい時期に実施します。 ●「なぜ川に入ってはいけないか」を説明した上で、どこまで川に近づいてもいいか、しっかりと安全確認します。 ●川原に落ちている危険物などは、下見の段階である程度取り除いておきます。その上で川原で遊ぶ際の危険性（石につまずいたり、ゴミでケガをする等の可能性）についても説明しておきます。 ●ペットボトルや発泡スチロールで、川に流す（子どもたちと競争する）魚を作っておきます。 | | | | |
| 5分 | ①川で泳いでいる魚を想像する | | | | ◎より川の流れの方に注意を集中させるため、状況に応じて、魚より遅くゴールしたら勝ちにするといったルールを設けてみるのもよいでしょう。 | | | | |
| 10分 | ②魚と競争する（川上→川下） ▼支援者：魚に見立てたもの（ロープ付き）を川に流す ▼子ども：魚がスタートすると同時に、魚になりきって河原で併走する | | | |  | | | | |
| 15分 | ③魚と競争する（川下→川上） ▼支援者：今度は川の流れに逆らって魚を引っ張る ▼子ども：魚になりきって河原で併走する アユなどが川上りをするスピード感を味わう | | | | | | | | |



| プログラム名 | | 宝石さがし | | | | | |
|------------------|--|---|---|---|--|---|---|
| 対象年齢 | | 年少・年中・年長（3～6歳） | | | | | |
| ねらい | メッセージ | 1つ1つの自然物に特徴があり、大切なものであることに気づこう | | | | | |
| | 発見・体感 できること | <ul style="list-style-type: none"> ・石の形、感触、大きさ、色などの違い ・石や砂だけでなくゴミが琵琶湖に流れつくこと ・人間が捨てたゴミが湖岸やその周辺に落ちていること | | | | | |
| 参加者のめやす | | 幼児 6人×3グループ / 支援者 4人 | | | | | |
| 実施時間 | | 30分 | | | | | |
| フィールド | |  | |  | |  | |
| | | 森・社寺林 公園 | 山・里山 | 川 | 湖・池 | 田畑・野原 | 園庭・公園 |
| 実施可能時期 | |  | |  | |  | |
| | |  | |  | |  | |
| 自然を感じる ためのヒント | |  |  |  |  |  |  |
| | |  |  |  |  |  |  |
| 時間 | | 活 動 | | | ●配慮・アドバイス ◎アレンジ | | |
| 5分 | ①グループごとに宝物（湖岸の石）をさがす |  | | | ●色や形が識別しやすいよう、石を入れる箱（底に白い紙を敷く）を準備しておきます。 | | |
| 15分 | ②石を使って作品を作る （例）積む 並べて模様を作る 顔を描く | | | |  | | |




| 時 間 | 活 動 | ●配慮・アドバイス ◎アレンジ |
|--|---|---|
| <p>4分</p> <p>3分</p> <p>3分</p> | <p>③グループ別に作品発表をする</p> <p>④気に入った石を一つずつ選び、それぞれがどんな形、感触をしているのか話し合う</p> <p>⑤周囲に落ちているゴミにも注意を向け、琵琶湖周辺の環境がどうなっているか、話し合ってみる</p> | <div data-bbox="813 582 1420 929" style="border: 1px solid #90EE90; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">「豆知識」ツルの特徴</p> <p>石には、「はち巻き石」「書ける石」など珍しい模様や性質のものがあります。また、山で大きな岩の一部が欠け落ち、雨などで土砂として川へ運ばれ、川の流れによって角がとれていき、砂となって海へ運ばれる、というふうに変えていきます。川原の石のふるさとは、周囲の山々なのです。</p> </div> <p>●ゴミを分別できるよう、ゴミ袋を複数用意し、活動後にゴミ拾いをしてから帰る習慣をつけるとよいでしょう。</p> <p>◎油性ペンで石に絵を描いて、見立て遊びができます。 (例) 顔を描く 車の形の石に窓やドアを描く</p> |
| <p>【異年齢への対応】</p> <p>◆どの年齢層でも、発達段階に応じた活動ができます。</p> | | |
| <p>【園や家庭へ帰ってから】</p> <p>◆園や家庭の周辺のゴミ拾いをしてみましょう。</p> <p>◆自然界のつながりや物質の循環を意識しながら、ゴミをそのまま放っておいたらどうなるか、みんなで話し合ってみましょう。</p> | | |
| <p>準備物・教材等</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・石を入れる箱（底に白い紙を敷いておく） ・拾ったゴミを入れるビニール袋（分別できるようにしておく） | |

| プログラム名 | | 見て・さわって・不思議体験 | | | | | |
|--|----------------|---|---|---|--|---|---|
| 対象年齢 | | 年中・年長（4～6歳） | | | | | |
| ねらい | メッセージ | 琵琶湖を身近に感じ、豊かな感性を培おう | | | | | |
| | 発見・体験 できること | <ul style="list-style-type: none"> ・ルーペで見る自然の不思議さ・美しさ ・砂の感触（乾いた砂と湿った砂）や見た目の違い（輝きや色） | | | | | |
| 参加者のめやす | | 幼児 25人 / 支援者 3人 | | | | | |
| 実施時間 | | 30分 | | | | | |
| フィールド | |  | |  | |  | |
| | | 森・社寺林公園 | 山・里山 | 川 | 湖・池 | 田畑・野原 | 園庭・公園 |
| 実施可能時期 | |  | |  | |  | |
| | |  | |  | |  | |
| 自然を感じるためのヒント | |  |  |  |  |  |  |
| | |  |  |  | | | |
| 時間 | | 活動 | | | ●配慮・アドバイス ◎アレンジ | | |
| 7分 | | ①魔法のめがね（ルーペ）で乾いた砂を見る | | | <ul style="list-style-type: none"> ●ルーペで太陽を見ないことを確認します。 →p14「魔法のめがね（ルーペ）」参照 ●ルーペの使い方のわからない子には、個別に手のひらに置いたものを見せ、ルーペを通して物を見ることの楽しさを知らせていきます。 ●個々の発見を大切にしながら、砂の大きさ・形・色・輝き等が発見できるよう、言葉がけをしましょう。 （例）子ども「この花を魔法のめがねで見たら、毛が生えている！」 支援者「魔法のめがねってすごいね。見えないものが見えるよね。どんな毛が生えていたのかな？みんなも見てみようか」 | | |
|  <p>砂が宝石みたいに光ってる</p> <p>うわー！森の中みたいや</p> | | | | | | | |

| 時 間 | 活 動 | ●配慮・アドバイス ◎アレンジ |
|--|--|--|
| 10分 | ②砂であそぶ <ul style="list-style-type: none"> ・裸足で歩く ・砂を手ですくって、手からこぼれる様子を見る ・砂の中で手や足のかくれんぼやグー・チョキ・パーなどのポーズあそびをする ・砂の中でじゃんけんをする  <p>じゃんけんポン!</p> | <ul style="list-style-type: none"> ●裸足になったときの、感触を楽しみましょう。 ●「もういいかい」などの言葉がけをして楽しくあそびます。  <p>あついな!!</p> <p>なんか下のほうは濡れている</p> |
| 8分 | ③波打ち際の砂であそぶ <ul style="list-style-type: none"> ・湿った砂の感触や冷たさを感じる | <ul style="list-style-type: none"> ●湿った砂の感触や水の感触、乾いた砂との違い等子どもが気づくようにします。 ●子どもが言葉や体、表情で表現する姿を受け止めましょう。 (例) 子ども「あれ?!濡れてる砂は、硬いな!」 支援者「ほんとに硬く感じるよね。さっきあそんだ浜辺の砂はサラサラしてたね。」 |
| 5分 | ④みんなで活動を振り返る | <ul style="list-style-type: none"> ●楽しかったこと、不思議に思ったこと、発見したことなどを活動の中で聞き取った子どもからのつぶやきなどもなげかけながら、活動を振り返りましょう。 (例) 支援者「乾いた砂は熱くてサラサラしてたけれど、水辺の砂は硬く重かったね。」 |
| 【異年齢への対応】 <ul style="list-style-type: none"> ◆年少：・砂の感触を楽しみます。(砂場あそびの延長) ・親子で活動をします。 | | |
| 【園や家庭へ帰ってから】 <ul style="list-style-type: none"> ◆水道水は琵琶湖の水からきていることを知らせ、水を大切にしようとする意識付けをしていきます。 ◆園での砂あそびの際に、琵琶湖での活動のことをふりかえり、園庭の砂と浜の砂の違いに気づかせましょう。 ◆ルーペで園庭の様々なものを見ましょう。 | | |
| 準備物・教材等 | <ul style="list-style-type: none"> ・ルーペ ・観察ケース ・サンダル | |



| プログラム名 | | プカプカ・サラサラ・ザー！ | | | | | |
|------------------|----------------|--|---|---|---|---|---|
| 対象年齢 | | 年中・年長（4～6歳） | | | | | |
| ねらい | メッセージ | 波の不思議さ・力強さに気づこう | | | | | |
| | 発見・体感 できること | <ul style="list-style-type: none"> ・浜辺に落ちているものの形・色・感触・種類 ・波の力強さ・砂の感触 | | | | | |
| 参加者のめやす | | 幼児 25人 / 支援者 3人 | | | | | |
| 実施時間 | | 30分 | | | | | |
| フィールド | |  | |  | |  | |
| | | 森・社寺林 公園 | 山・里山 | 川 | 湖・池 | 田畑・野原 | 園庭・公園 |
| 実施可能時期 | |  | |  | |  | |
| | |  | |  | |  | |
| 自然を感じる ためのヒント | |  |  |  |  |  |  |
| | |  |  |  |  | | |
| 時間 | | 活 動 | | | ●配慮・アドバイス ◎アレンジ | | |
| 5分 | | ①浜に落ちているもので自分の好きなものを集める (枯葉・枝・石・その他) ・仲間集めをする (同じ種類のものを集める) | | | <ul style="list-style-type: none"> ●「こんな素敵なものを拾ってきたよ」などと実際の物を見せて、探す意欲を高めます。 ●子どもたちの見つけた物を「『素敵なもの』『楽しいもの』『不思議なもの』を見つけたね」などと認める言葉かけをしましょう。 ●見つけたものの中で、琵琶湖や浜に必要なでないもの・ゴミとなるものは何かを考え、ビニールの袋等に入れ持ち帰ります。 | | |
| | |  | | |  | | |

| 時 間 | 活 動 | ●配慮・アドバイス ◎アレンジ |
|-----|--|---|
| 15分 | ②集めたものを波打ち際に積んであそぶ (好きなものを選んでチームに分かれる) 木チーム 石チーム 砂チーム など ・高く積む ・友だちと一緒に、砂を集めて山を作る ・山が波で崩れていく様子を見る | ●いろいろなものを積んで山のようにしていく楽しさを知らせます。高く積むだけでなく倒れないように工夫している姿を大切にします。 ●波が来たらどうなるかを考え、波の力強さに気づけるようにします。 ●積んだものが崩れていく様子を見たり、崩れないようにしたり工夫します。 |
| 5分 | ③浜辺で絵を描く ・楽しく琵琶湖であそんだ思い出として砂に絵を描く | ●指や枝で描いたり、石や藻などを使って描きます。 |
| 5分 | ④ふりかえり | ●波が絵を消したり、砂山を崩したりする力強さや、波による砂の模様など、波の不思議さについて話し合みましょう。 ◎津波や高潮の脅威について考えてみよう。 |

【異年齢への対応】

- ◆年少：
 - ・波打ち際に親子で座って波を感じます。
 - ・山を作ったりこわしたりしてあそびます。
 - ・指や枝で砂に絵を描きます。
 - ・親が子どもをおんぶして水に入ってみます。

【園や家庭へ帰ってから】

- ◆その場に必要のないものはできるだけ持ち帰るなど、自然や公共の場をきれいにすることの大切さを知らせています。
- また、自分にとっていらぬものがゴミでなく、自然の中にあつて不自然なものがゴミであるととらえ、人間がゴミを出していることを改めて考えましょう。
- ◆クラスだよりなどで、子どもと共に何を大切にしているか保護者に伝え共通理解できるようにしましょう。

| | |
|---------|---|
| 準備物・教材等 | <ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ袋 ・サンダル |
|---------|---|

| プログラム名 | | みずべのいきもの なにがいる？ | | | | | |
|--------------|--|---|---|---|---|---|---|
| 対象年齢 | | 年中・年長（4～6歳） | | | | | |
| ね ら い | メッセージ | 川や湖には多様な生きものがいることに気づこう | | | | | |
| | 発見・体感 できること | <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな生きもの（魚、貝や水草など） ・水の流れ ・水のおい ・川底の泥やゴミ | | | | | |
| 参加者のめやす | | 幼児 50人 / 支援者 3人 | | | | | |
| 実施時間 | | 30分 | | | | | |
| フィールド | |  | |  | |  | |
| | | 森・社寺林公園 | 山・里山 | 川 | 湖・池 | 田畑・野原 | 園庭・公園 |
| 実施可能時期 | |  | |  | |  | |
| | |  | |  | |  | |
| 自然を感じるためのヒント | |  |  |  |  |  |  |
| | |  |  |  |  | | |
| 時間 | | 活 動 | | | ●配慮・アドバイス ◎アレンジ | | |
| 5分 | ①グループごとに並ぶ ・約束事を聞く | ●危険な場所には支援者が立ちます。 ●笛の音で集合します。 ●網などの道具は交換して使います。 ●決められた場所であそびます。 ●生きものを大切にします。 ●深いところには行きません。 ◎ポスターの裏紙などに約束事を書いて、見せながら注意するとわかりやすいです。 | | | | | |
| 20分 | ②グループごとに川の生きものを探す ・網などを使って捕まえる ・捕れた魚は観察ケースに入れる | ●決められた場所であそべている、網などの道具は交替で使っているかなど、様子を見ながら約束の確認をします。 ●ゴミなどを見つけたときは、「なぜここにあるのかな？」など言葉がけし、ゴミ袋に入れるようにします。 | | | | | |



| 時 間 | 活 動 | ●配慮・アドバイス ◎アレンジ |
|---|---|--|
| <p>5分</p> | <p>③グループごとに捕れた生きものについて話し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図鑑で調べる ・他の班と捕れたものを見せ合う  <p>④ふりかえり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなでどんな生きものがいたのか、また生きもの名前などを確かめる ・川の魚と琵琶湖の魚を比べ、川と湖の違いについて話し合う ・捕った生きものをどうするか話し合う | <p>◎捕った生きものを1つの大きな観察ケースに入れます。プログラム終了後に生きものの変化を見ます。</p> <p>●捕った生きものは、話し合いで決まったようにします。 （例）元の場所に還します。</p> <p>●川は危険なので、子どもだけでは行かないことを話します。</p> |
| <p>【異年齢への対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆0・1・2歳児：川の中の様子や支援者が捕った魚を水槽などに入れたものを見ましょう。 ◆年少：・親子で活動してみましょう。 ・浅瀬で魚の家や池を作り、魚を入れて捕ったり、見たりしましょう。 | | |
| <p>【園や家庭へ帰ってから】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆物の循環を意識しながら、ゴミのことを考えてみましょう。 ◆本や図鑑で生きもの調べをしましょう。 ◆上流、下流、琵琶湖へ水が流れていることやいろんな生きものがあることを知しましょう。 ◆実際に捕獲した水辺の生きものを飼ってみましょう。また、その生きもの住みやすい環境を作ってみましょう。 | | |
| <p>準備物・教材等</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・図鑑 ・網やペットボトルで作ったカップ ・観察ケース ・たらい ・ゴミ袋 | |

| プログラム名 | | 作ってみよう！石ころ動物園 | | | | | |
|--------------|----------------|---|------|---|--|---|-------|
| 対象年齢 | | 年長（5～6歳） | | | | | |
| ねらい | メッセージ | 自然物は、同じものがなく、1つ1つ特徴があることに気づこう | | | | | |
| | 発見・体感 できること | <ul style="list-style-type: none"> ・石の形、感触、大きさ、色の違いなどに気づく ・湖岸にある自然物を見つけるのを楽しむ | | | | | |
| 参加者のめやす | | 幼児 35人 / 支援者 6人 | | | | | |
| 実施時間 | | 30分 | | | | | |
| フィールド | |  | |  | |  | |
| | | 森・社寺林公園 | 山・里山 | 川 | 湖・池 | 田畑・野原 | 園庭・公園 |
| 実施可能時期 | |  | |  | |  | |
| | |  | |  | |  | |
| 自然を感じるためのヒント | |  | |  | |  | |
| | |  | |  | |  | |
| 時間 | | 活動 | | | ●配慮・アドバイス ◎アレンジ | | |
| 10分 | | <p>① 6グループに分かれて座り、色々な石を見せる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石探しについて、約束ごとを確認する (笛の合図で集まる) (琵琶湖でのあそびごとを確認する) <p>② 6グループに分かれて石探しをする</p> <p>見つけた石を牛乳パックに入れる</p> | | | <ul style="list-style-type: none"> ●色々な石を見せ、子どもたちに興味をもたせましょう。 (事前に石を拾っておく) ●拾った石は牛乳パックに入れるように伝えましょう。 (石はどんな形のものでも良い) ●ガラス等の危険な物に触れないように伝え、安全面に十分注意しましょう。 ●子どもをつぶやきや発見に共感しましょう。 ●子どもたちが集めた石を紹介しましょう。 | | |
| | |  | | | | | |



| 時 間 | 活 動 | ●配慮・アドバイス ◎アレンジ |
|---|--|--|
| <p>15分</p> <p>③動物園をつくる 石にクレパスで顔を描く 自然物を使って動物園のスペースをつくる 他の自然物を探しに行く</p> <p>④できた動物園であそぶ</p> <p>5分</p> <p>⑤まとめ できた動物園をふりかえる</p> |  | <p>●活動がしやすいように石で作った動物などの見本を見せましょう。</p> <p>●描きにくそうにしている子には、どうすれば描きやすくなるか手立てを伝えましょう。</p> <p>●自然物のよさに気づいていけるように話をしましょう。</p>  |
| <p>【園や家庭へ帰ってから】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆園庭や家で、石を比べてみる。 ◆石レストラン、石スーパー、石昆虫図鑑など動物園以外で石遊び。 ◆石以外の自然物を使っての見立て遊び。 ◆絵を描く以外の遊び。 (石ならべ、石アート、石積み、石転がし大会、描ける石でお絵かき、動物づくり) ◆石さがし。(石垣、墓石、石臼、生活の中の石) | | |
| <p>準備物・教材等</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・クレパス6こ ・バケツ6こ ・牛乳パックのカバン (子どもの人数分) ・サンダル | |

| プログラム名 | | ヨシと仲ヨシ | | | | | |
|------------------|--|--|------|---|--------------------|---|-------|
| 対象年齢 | | 年長（5～6歳） | | | | | |
| ねらい | メッセージ | ヨシが水の浄化に役立っていることに気づき、人間の生活にも結びついていることに気づこう | | | | | |
| | 発見・体感 できること | <ul style="list-style-type: none"> ・ヨシについて知る。 ・ヨシに触れてあそんだときの楽しさ。（見た目、手触り、重さ、かたさ） | | | | | |
| 参加者のめやす | | 幼児 35人 / 支援者 4人 | | | | | |
| 実施時間 | | 30分 | | | | | |
| フィールド | |  | |  | |  | |
| | | 森・社寺林 公園 | 山・里山 | 川 | 湖・池 | 田畑・野原 | 園庭・公園 |
| 実施可能時期 | |  | |  | |  | |
| | |  | |  | |  | |
| 自然を感じる ためのヒント | |  | |  | |  | |
| | |  | |  | |  | |
| 時間 | | 活 動 | | | ●配慮・アドバイス ◎アレンジ | | |
| 5分 | ①導入 ・白い石 ・ヨシ ヨシの話を聞く ・ヨシはどこから来た？ ・ヨシの役割は？ | <ul style="list-style-type: none"> ●びわこでの約束を確認しましょう。 ●石等は回収しておきましょう。 ●事前にヨシについて調べておき、実物のヨシ（写真）を準備しておきましょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・水をきれいにしてくれること。 ・魚や鳥のすみかになること。 | | | | | |
| 5分 | ②ヨシに触れる ・見た目 ・感触 ・重さ ・折る ・かたいヨシを探す | <ul style="list-style-type: none"> ●ヨシに触れ、子どもの声を聞きながら進めていきましょう。 ●子どもの発見やつぶやきを受け止め共感しましょう。 | | | | | |



